

年・頭・所・感

「知」の記録、
そして展開

ご愁傷様、衷心より、僭越ながら、祇園精舎、…
どんな意味なのか疑問に思った言葉にぶつかったことは
ありませんか。年寄りの自慢話になりそうで恐縮ですが、
私が通った寒村の小学校は全学年の生徒数が150名ほど。
教室は4つで複式学級。ろくな設備もない。それが4年生の
時に増改築があり2畳ほどのスペースの図書室ができました。
壁一面に世界の児童文学がずらり(といっても、今から思えば
ほんのわずかでしたが)、一番下の段には10冊ほどの「
子供科学図鑑」が並んでいます。私は夢中になってこの科学
図鑑を読みました。地球はどのようにできたか、恐竜はなぜ
絶滅したか、日食はどうして起きるか、なぜ空は青いのか、
…など、それまでの疑問がほとんど解決したのでした。

中学、高校、大学と、世界が広がるにつれ、知らない
言葉、現象が増えてきます。その都度手持ちの小さな辞書で
調べます。満足できる答えが得られないこと度々でした。
就職してまもなくの頃、転勤してきた某上司が「ここには
広辞苑はないのか」と言います。数日後広辞苑が届く。
びっくりしました。こんな素晴らしい辞書があったのか。
私はそれと相前後して平凡社の「世界大百科事典」を自ら
購入。それからというもの、もはや敵なし。東洋、西洋の「
洋」とは、総理大臣と首相とはどう違う、なぜ「都道府
県」というのか、室町幕府の室町はどこ？ ハードボイル
ドって何？ …。

広辞苑には日本の言葉全てが収まっていると思っ
ていましたが、違いました。日本で最大の国語辞典は「
日本国語大辞典」で、通称「日国」(ニッコク)と言
うそうです。収録語数は広辞苑や大辞泉の20万～

能登繁幸(のと しげゆき)
技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人
日本技術士会北海道本部
本部長



30万語に対し、何と50万語を超えます。昭和36
年に編集作業が始まり昭和47年に第1巻、昭和
51年2月に全20巻を刊行して完結。その間、実
に15年。その後第二版13巻も刊行されています
が、編集作業を担ったのは松井栄一(シゲカズ)とい
う人です。この方、実は祖父も、父も「日国」の辞書
作りに関与しており、三代にわたって人生のほとん
どを辞書作りに捧げているのです。事実を知って頭
が下がりました。

史記で有名な司馬遷を思い出します。彼は匈奴に
投降したとされる李陵を弁護したため武帝から腐刑
(去勢の刑)を宣告。されど、絶望しながらも自害は
しない。彼は、父の司馬談の意志を継いで史記を書
き始めていました。史記が完成するまでは死ねない。
司馬遷は腐刑を受け入れ、親子二代の意志として史
記を完成させたのです。

かくのごとくあまねく世に散らばる「知」を集積
し、整理し、記録することはきわめて重要な行動で
あり、それを担う人たちには深く敬意を表したいと
存じます。しかし我々技術士は得られた知を記録す
るだけでは意味をなさないと考えます。高度な知に
豊富な経験を加味し、新たな知を探索し、組み立て、
社会の発展に役立てる。すなわち「知」の展開。それ
が技術士の使命だと思えます。

つい最近、長年お世話になった我が家の百科事典
を廃棄処分しました。近頃は広辞苑に手が伸びませ
ん。興味や疑問が無くなったのではなく、今や調べ
ものはほとんどWikipediaで済むからです。これ
から先も、何にでも興味を示して行くつもりです。
それが若さを保つコツだと思っております。